

一茶ゆかりの里四季の俳句会（令和元年七月～九月分）

選者 志やくなげ 高野重治 先生

特選天

海の無き上州の空鰯雲

群馬県

仙田美名代

上州は上野の国、今の群馬県です。長野県と同じく海に接していない海無し県です。掲示は海は無くても空一面に鰯の大群がいるぞと誇示した佳句です。

特選地

出し抜けにひぐらし一山揺しけり

群馬県

鈴木百合子

ひぐらしは夜明けや夕暮に高くとおる声で「かなかなかな」と鳴きます。「一山揺らしけり」の措辞が鳴き声の様子をよく表している佳句です。

特選人

敬老日瀟洒な老の赤ネクタイ

愛知県

平野辰美

敬老日の行事に参加された老人の赤ネクタイを詠めました。老いても「瀟洒な」「赤ネクタイ」に元気が感じられます。会場の明るい雰囲気を感じさせてくれる佳句です。

入選

梅雨晴れ間喉の奥まで鯉の口

群馬県

滝沢照香

入選

遠き日の好みの浴衣袖通す

群馬県

土屋はじめ

入選

雨空に四葩は碧を磨き上げ

群馬県

町田宏

入選

さぶさぶと素麺冷す夕餉時

長野市

浦野スミ子

入選

花石榴勝気に生きて七十年

長野市

玉井玲子

入選

たけのこがぐーんとのびて背くらべ

須坂市

関谷千尋

入選

蝙蝠の上下したるや夕間暮

宮城県

福田良光